



埋文だより

第63号

平成26年2月14日発行



竪穴住居跡内に見える連穴土坑



連穴土坑と竪穴住居跡の断面

竪穴住居跡と 連穴土坑の切り合い発見

田原迫ノ上遺跡の縄文時代早期(約8,500年前)の調査では、これまで9軒の竪穴住居跡と24基の連穴土坑が発見されています。今回、この2つの遺構が一部重なって発見されました。平成23年度に同様のものが発見されており、本遺跡では2例目となります。今回発見されたものは竪穴住居跡と連穴土坑の埋土が区別できないほど類似しており、両者はきわめて近い時期に使用されていたことが想定されます。上野原遺跡(霧島市)や定塚遺跡(曾於市)などでも類例があるので、詳細については今後比較検討を進めていく予定です。

目次

- ・竪穴住居と連穴土坑の切り合い発見 1
- ・平成25年度遺跡の発掘調査 2, 3
- ・ふれて・学んで・感じた 埋蔵文化財
まいぶんキット貸出事業ほか 4
- ・岩手だより②～北の縄文文化にふれて～ 5
- ・かごしま遺跡フォーラム2013ほか 6

速報！ 平成25年度 遺跡の発掘調査

本年度、県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターでは、県内18遺跡の発掘調査を行い、7遺跡の報告書を作成しました。このうち、8遺跡を速報でお知らせします。詳細は、来年度の企画展「新発見！かごしまの遺跡2014」で紹介します。

① 土器を多く含む溝 ～中津野遺跡～（南さつま市）



弥生時代末から古墳時代初頭（約1,800年前）の溝が1条発見されました。幅110cm、深さ70cm程で断面はU字形をしており、南の調査区外から北に向けて約18m延びた所で終わっています。

溝の中には中津野式土器とよばれる土器が多数入っていたことにより、溝がつけられた時期が分かりました。今後これらの土器を復元し目的の解明に努めていきます。

③ とてもおしゃれな縄文人 ～町田堀遺跡～（鹿屋市）



首飾りなどの装飾品（玉類）が5点出土しました。時代は縄文時代後期（約3,200年前）のもので、首から下げる垂飾と丸玉2点は、新潟県産出の翡翠の可能性がります。

管玉と勾玉は緑色の石を使っています。近くからは砥石も見つかり、この場所で磨いていたようです。

② 逆さに埋められた縄文土器 ～牧山遺跡～（鹿屋市）

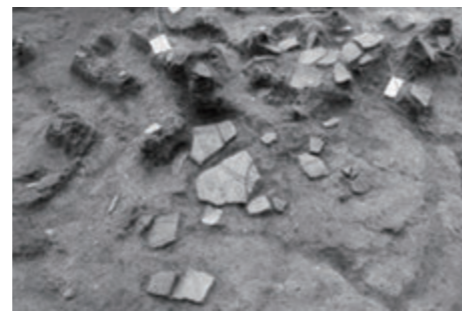


縄文時代前期（約6,000年前）の埋納土器が発見されました。

出土した様子を観察すると、当時の人々が地面に穴を掘り、そこに土器を逆さに埋めたものと考えられます。土器の大きさは高さ約35cm、直径30cmです。

土器の中に何か入っているのかどうか今後の調査で明らかにしていきます。

④ 縄文時代の遺物が続々と ～京の塚遺跡～（大崎町）



縄文時代の中頃（約5,000年～4,000年前）の土器や石器が、多く出土しています。石を打ち欠いて石器をつくる時、小さな石のかけら（剥片といいます）が飛び散ります。その剥片がたくさん見つかりました。また、土器がまとまって出土した箇所もいくつかあります。

当時の人々がこの地で生活を営んでいたと考えられます。

⑤ 大盛況の現地説明会～永吉天神段遺跡～（大崎町）

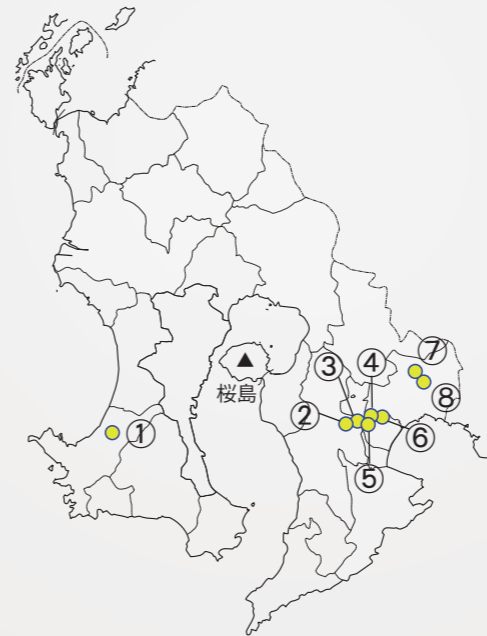


現地説明会

地域が育む『かごしまの教育』県民週間に合わせ、11月9日（土）に永吉天神段遺跡で現地説明会を開催しました。約310名の考古学ファンが集まり縄文時代早期の集石、弥生時代の集落跡・出土遺物・地層の説明に熱心に耳を傾けていました。発掘体験も行い、遺物が出土する度に歓声が上がっていました。



発掘体験



⑥ 縄文時代の土器と弥生時代の住居跡 ～荒園遺跡～（大崎町）

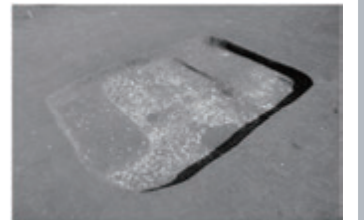
縄文時代早期（約8,000年前）の調査と弥生時代中期（約2,000年前）の調査を進めています。

縄文時代早期の調査では、塞ノ神式土器が一個体分まとまって見つかりました。弥生時代中期の調査では、ベッドのような施設を持つ堅穴住居跡が1軒見つかりました。

本年度の調査で、合計3軒の堅穴住居跡が発見されたこととなります。



一個体の塞ノ神式土器



弥生時代の堅穴住居跡

⑦ 踏み固められた道の先 ～山ノ口遺跡～（志布志市）

硬化面が20条ほど発見されています。平均して長さが15m、幅が10～20cm程度でほぼ直線的に東西に伸びています。



時期は不明ですが、表面が硬くしまっていて踏み固められた黒土でできています。道の先に何があるか楽しみです。

⑧ 新しい遺構と古い遺構 ～下原遺跡～（志布志市）

この遺跡は、志布志市有明町伊崎田の県道63号線沿いにあります。この県道に並進するように「フィケド」と呼ばれる明治時代に使われていたと考えられている溝状の道跡が続いています。また、旧石器時代（約15,000年前）の黒曜石のブロックや縄文時代早期（約8,500年前）の集石遺構などが発見されています。



ふれて・学んで・感じた 埋蔵文化財

本物にふれる -まいぶんキット貸出事業-

本年度は、25校2施設（対象1,245名）への貸出事業を実施し、授業や郷土教育への取り組みに活用されました。

「いつもはガラスの中にあるものが、さわれたり、見れたりできた。」

「縄文時代の土器が、今あるのがスゴイ！」

「縄文時代や弥生時代の道具で、どのような物があるのか、もっともっと調べたいです。」等、感想が寄せられました。

来年度も、「まいぶんキット貸出事業」として、本物にふれる機会を提供します。ご活用ください。



土器や石器にふれてみよう

☆対象：県内の希望する学校、公民館等の文化事業

☆貸出教材：土器（縄文時代、弥生時代）、石器（石斧、石鏃）など

例：「縄文土器の文様を比べよう」「火起こし体験をしてみよう」
「薩摩焼の歴史」 堂平窯などの出土遺物など

かごしま県民大学連携講座「鹿児島島の遺跡に学ぶ」

本年度も、鹿児島島の歴史を3回にわたって、わかりやすく紹介しています。

☆第2回「かごしまの歴史をたどる」〈11月30日（土）〉

23名の参加者があり、

「とても分かりやすく、ボリュームのある資料で感激しました。」

「西南戦争の鉄砲のあとを実際に触れることができワクワクしました。とても楽しかったです。」

「実際、目で見て、触れて、感じる事の出来る講演もとても良かったです。」など、大変好評でした。

☆第3回「桜島26,000年の記録」〈1月12日（土）〉

桜島大正噴火100年を機にこちらも好評でした。

来年度も本年度と同じ時期に開催する予定です。

詳細はお問い合わせください。



第2回講座「かごしまの歴史をたどる」

埋蔵文化財専門職員養成講座（上級講座）



発掘現場にて質疑応答

市町村の埋蔵文化財担当職員を対象にした専門職員養成講座（上級講座）を1月16日（木）～17日（金）に開催しました。埋蔵文化財を発掘調査していく上で民間企業をどのように導入し、よりよく進めていくかをテーマに実施しました。2日目は、発掘現場（2か所）に赴き、実際の調査の進め方を視察し、どのように生かしていくか質疑応答も活発に行われました。事後のアンケートも「実際に導入を進める場合の参考になった」という感想が多く寄せられました。

岩手便り②～北の縄文文化にふれて～

東日本大震災の復旧・復興ふっこうに関わる埋蔵文化財調査支援のため、岩手県はけんに派遣されてほぼ2年がたとうとしています。日々の支援業務に追われつつも、折に触れて東北地方の縄文文化にふれる機会を得てきました。今回は、私が感じた北の縄文文化について紹介したいと思います。

東北地方の縄文集落は、たてあなじゆうきよ 竪穴住居・ロングハウス（大型建物）・墓・ちよぞうけつ 貯蔵穴・捨て場・盛土遺構・モニュメント（記念物）など様々な施設で構成されています。

竪穴住居は縄文前期～後期にかけて多くみられます。多数の切り合いが見られ、特定の場所で何度も建て替えが行われています。南九州では屋内炉がなく、屋外にれんけつど 連穴土坑や集石といった調理施設がありますが、東北地方では屋内炉を伴うのが一般的です。

長方形や長楕円形をした長さ10mを超える建物はロングハウスと呼ばれ、南九州にはない遺構です。共同作業所や冬場に共同生活を送るための施設と考えられています。



三内丸山遺跡の巨大木柱列とロングハウス

漆とアスファルトの利用も南九州にはない特色です。晩期の青森県八戸市是川中居遺跡これかわなかいいせきなどでは漆製品がたくさん出土しています。

アスファルトは、せきぞく 石鏃やもりさき 銚先の固定、土器の破損部分の修復などに幅広く利用されています。

後期～晩期を中心に、マツリに関係すると思われる遺物やモニュメントが造られます。代表的なモニュメントとして、秋田県鹿角市大湯環状列石おおゆかんじょうに代表される、石を大きく円形に並べた環状列石と呼ばれるものがあります。

他には青森市三内丸山遺跡さんないまるやま いせきの六本柱の巨大木柱列などが有名です。



大湯の環状列石（野中堂環状列石）

このようなモニュメントは南九州では見られません。また、東北地方北部は土偶どぐうが非常に多く出土する地域でもあります。鹿児島では土偶の出土は数点しかありませんが、青森県や岩手県では2,000点以上出土しています。

東北で暮らすと、四季が明瞭で時が循環するという意識を強く感じます。そして豊かな自然とその豊富な恵みに驚かされます。これらは縄文時代でもほぼ同様であったと思われ、北の縄文文化は、自然の恵みへの感謝と再生への願いを込めたと考えられる遺構や遺物が多い印象を受けます。

鹿児島と東北では気候や動植物相、季節感など多くの点で異なります。南九州の縄文人たちは、自然をどのように感じ、向き合い、表現してきたのでしょうか。今後の調査成果が期待されます。

（岩手県派遣職員 平 美典）

『かごしま遺跡フォーラム2013』

～北と南の縄文文化～



鹿児島県立埋蔵文化財センターは昨年度に続き、平成25年10月26日に『かごしま遺跡フォーラム2013～北と南の縄文文化～』と題して記念フォーラムを開催しました。

本センターが今年度実施してきました発掘調査や報告書作成における成果を「南の発掘調査」として紹介し、続いて北の発掘調査」として東日本大震災の復興支援に関わる発掘調査の現状について発表を行いました。

東日本大震災から約2年半が経過した中で、実際どのような現状なのか、埋蔵文化財に関してどのような復興支援を行って成果を上げているのか、鹿児島県の職員自らの言葉に心響くものを感じた参加者も多かったと思います。最後に北と南の遺跡を比較しました。住環境の違いから、同じ用途目的の遺物でも形状や大きさが異なることや双方で流通していた事例をあげ、縄文文化の共通性と多様性について御理解いただけたいと思います。御来場いただいた皆様には心からお礼を申し上げ、また関係各位に感謝いたします。



所長挨拶



北の縄文文化の発表



南の縄文文化の発表

上野原縄文の森第38回企画展『すべてはマンローから始まった～かごしま発掘調査のあゆみ～』



現在、上野原縄文の森展示館では、第38回企画展『すべてはマンローから始まった～かごしま発掘調査のあゆみ～』（3月23日まで）を開催しています。

鹿児島の考古学調査が始まった100年前（1914年）の石郷遺跡発掘調査を行ったのがN. G. マンローでした。今回の展示では、マンローの業績や人物像のほか、鹿児島県の考古学会の発展に寄与した先人や発掘調査に関わった高校生の記録なども紹介しています。是非一度、御来園ください。

◎企画展ギャラリートーク【開催中の土・日・祝日】①10:30～ ②14:30～
鹿児島県上野原縄文の森 展示館 TEL0995-48-5701

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp/>) からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック

埋文だより 第63号

発行日 平成26年2月14日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp